
続・一条財閥再建会議

STORM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

続・一条財閥再建会議

【Nコード】

N5543F

【作者名】

STORM

【あらすじ】

駿たちの時代から約40年後。鍊磨の一条財閥は衰退し、椎名財閥に吸収されかかっていた。そんな中、鍊磨の孫、一条命が一族と再建するため、再び会議を行う。前回の続編です。

（前書き）

前回の続編です。別に誰かから希望があったわけでもなく、暇だったんで書きました。多分これからも勝手に書き続けます。

「前回の会議じゃほとんどまともに話ができなかったからな。今回は逃げるなよ!?」

本日の出席者は、六条、七条、九条の三人。
前回の命の暴れようでみな見捨てたようだ。

「何故再建したい？」

「ああ！オレには打倒椎名財閥という目標がある！」
「理由になってない」

七条はあっさり切り捨てて・・・しかも本を読みながら。

七条は一度に最大4つの動作を行うことができる。
話す、聞く、読む、歩くの4つだ。

聞くことは最大20人まで可能。

聖徳太子もビツクリのスキルである。

「でもオレは昔からお前らと違って貧乏生活を強いられてきた！それを乗り越えたいんだ！」

「どうぞご勝手に」

「ふふふ」

「勝手にってなんだよ!?しかも九条！笑うな！」

「あら、失礼」

命はそれでも返事をしてくれたことが嬉しかったりする。

実は前回の会議と言っているが、その前に1度開催されたが誰も来なかったとか。

「椎名財閥の当主暗殺すれば？」

「無理に決まってるんだろ！？だってあの椎名翠香は伝説の暗殺者、もしくは殺し屋の娘なんだぞ！？親に計画がばれたらこっちは死ぬわ！！」

「あら、命さんは知らないのですか？その伝説の殺し屋・片瀬駿とあなたのお爺様はお友達ですよ？」

「マジで!？」

そりゃそうだ、命は錬磨に口もきいてもらえなかったからだ。

しかもその理由はアニメの視聴中だったり、ゲームのプレイ中だったからとか言う理由だったりする。

しかも錬磨がやるゲームは決まってエロゲという、孫がいる男がやるべきではないようなゲームを、子供の前で堂々とやっていた。

案外酷いもんだ。

まあ、それをどっかの殺し屋は錬磨に行っていたのだが・・・エロゲはやってないけど。

「ま、暗殺なんて物騒なことは止める」

「ちょ、七条！お前が提案しただろうが!？」

「七条なら今帰りましたよ？」

「しちじょおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおお!!!!!!!!!!」

「ふふふ」

九条は相変わらず微笑んでいる。

「まあまあ、まだ私がいるのですから。そうお気になさらないで」

「九条・・・」

「でも手伝いませんよ？」

優しい言葉をかけておきながら裏切る。

前回は九条はそうやって命を見はなした。

「なあ、どうすればいい？」

「自分で考えましようね。それともお姉ちゃんが見てないとできないのかな？」

「ふざけんな」

常に笑みを顔にうかべる九条。

こんなタイプの人間が一番怖い。

「まあ、ここにいるメンバーはみんなあなたに年が近い方ばかりですから、話は少しは理解してくださると思いますよ」

「ん？そう言えば九条っていくつだ？」

「命さん、女性に歳を尋ねるものではありませんよ？」

「見た感じオレより1、2歳くらい年上だと思っただけど」

ちなみに命は15歳である。

今年高校生になったばかりである。

ちなみに私立椎名学院の特待生で入学した。

実はサッカーが非常に上手で、県の選抜メンバーに選ばれたり、全国大会で優勝したりするチームに所属していたりする。

なお、彼はキャプテンをやっていた。

「あなたよりひとつ上ですよ。私立椎名女学院2年九条友音とは私のことです。噂に聞いているでしょう？」

私立椎名女学院とは、この国でかなり限定された女生徒が入学することができる私立椎名学院の派生された学院である。

完璧かつ究極の女性を作り上げるためだけに作られた高等学校。

実行犯は駿だったりする。

その入学制度故、この国で一番入学が困難と言われたりする。

ちなみに試験は、超高難易度の国数英理社の普通教科合計490点以上、容姿端麗、言葉遣いが丁寧、運動神経抜群でなければならぬ。

更にいじめなどが起きた場合は実行犯を全て椎名学院に転入させるが、ここまで選別された子ばかりなので滅多にない。

「あんなとこに入学してるのかよ・・・てか噂ってなんだよ」

「入学するだけで社会的ステータスになりますよ」

「噂の方はシカトかよ・・・」

命は次元が違うと思いつたようである。

「それに私は女王様と呼ばれているのですよ、ふふふ」

「お姉さまじゃねえのかよ」

「あら、命さんはそんな世界がお望みなのですか？生憎宗教とかかじっていない学院のため、そこまで徹底はしていませんし、それにそんなアニメやゲームみたいなことは現実にはそうありませんよ？」

「い、いや・・・オレが想像してたイメージと違ってたからさ・・・」

「なお、九条は世界的に有名なピアニストだったりする。」

それによって九条はピアノの女王と呼ばれている。

これを命は勘違いして危ない方の女王様と解釈してしまったようだ。

ちなみに私立椎名女学院は先輩のことを代わりに本当にお姉さまと呼んでたりする。

「あら、もうこんな時間。もう遅いですから坊やお布団に入りますよ」

「坊やじゃねえ！それにオレ布団じゃなくてベッドで寝てるし!？」

「あらごめんなさい。私がいつもお布団で寝ていますので。私、9時には寝たいのですが、もう9時過ぎていました。お開きにしまし
ようか」

「・・・そうだな。今回はお前に同意する」

こうして会議は終わった。

本題はほとんど話さないで。

今更だが七条はさりげなく置手紙をしていた。

内容は、

「次呼び出されてもいかねーから」

「今回も出番なかったな・・・」
そう、誰もいない会議室で呟いて六条が寂しそうに立ち去った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5543f/>

続・一条財閥再建会議

2010年10月16日14時56分発行